私の工夫

生活科の授業における気付きの質を高めるための支援の工夫

笠岡市立笠岡小学校
教諭　小野 裕子

1　はじめに

本校は、平成25・26年度の2年間、笠岡市教育研修所の研究指定を受け、研究テーマ「自然に働きかけ　探求する子どもの育成～体験と言語活動を重視した理科・生活科の指導を通して～」を設定し、めざす児童像として、①自然に接し、不思議さ・おもしろさを感じ、活動への願いを高める児童　②見通しをもち、主体的に活動を続ける児童　③活発に話し合い、気付きの質を高める児童、の三つを考えた。

次に、これら三つの児童像にせまるために、以下のような研究仮説を立て授業実践に取り組むことにした。

研究仮説1：導入の場面において、素材や提示の仕方を工夫することによって、自然の不思議さ・おもしろさを感じ、活動への願いを高めることができるだろう。

研究仮説2：対象と関わりを深めていく場面において、環境設定や人やものと積極的に関わるための支援を工夫することによって、見通しをもち、主体的に活動を続けることができるだろう。

研究仮説3：交流や振り返る場面において、確かな言葉で表現したり、気付きを比べたりすることができるような支援を工夫することによって、活発に話し合い、気付きの質を高めることができるだろう。

これらを具現化するために「気付きの質を高める」ことをキーワードに取り組んだ支援について紹介していきたい。

2　具体的な取組

○インパクトがあり、直接体験ができる導入の工夫

これは、1年生の「あきとなかよし」の単元の導入に使った「あきのビンゴ」カードである。普段何気なく見ている校庭の自然を、ビンゴゲームを楽しむ感覚で、クイズを解きながら見ていくことで児童は新たな発見をしたり、きれいな色の落ち葉を集めたりしながら、校庭の秋に気付き、秋を感じることができた。

○視点を明確にする「気付きキャラクター」

これは、本校で考えた「気付きキャラクター」である。いろいろな感覚や友達とのつながりを使って対象と深く関わっていくことにより、様々なことに気付くことができると考えた。ワークシートにイラストを入れて印刷しておき、児童自身がどの視点を使って気付いたのかを意識できるようにした。また、教室にも掲示しておき、国語や朝の会など、生活科の授業以外にも意識できるようにした。

○気付きにつながる準備物

身近にある物を使って遊ぶ物を作って行く学習では、活動が停滞しがちな児童のために、教師が作ったパワーアップしたおもちゃ（＝「プレミアムなおもちゃ」）を準備した。

「気付きキャラクター」を入れた「わくわくカード」

【ぴょんぴょんウサギ】
ウサギの頭になる部分（紙コップの底）をくり抜き、太いゴムを紙コップに取り付けて、ゴムを強く引っ張ることができるようにしたもの。土台も筒に変えた。

一斉に紹介するのではなく、活動の進み方に応じて適宜紹介し、それを使って自由に遊ぶことができるようにした。改良のヒントになり、意欲的に活動を続けていくことができたと思う。

○気付きを高めるための言葉かけ

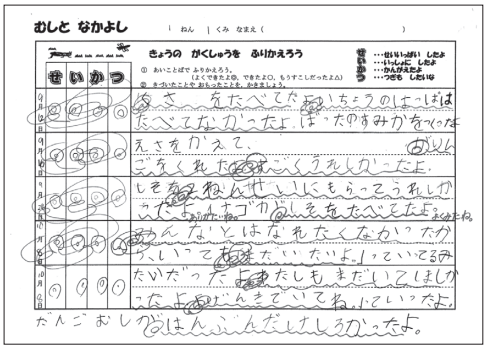
児童が何気なく行ったしぐさやつぶやきなどをしっかりと受け止め、それらを取り上げて価値付けることを通して、実感の伴った気付きにつないでいくように心がけた。

T：ほんとにきれいな青紫のあさがおが咲いたね。　**…共感**
C：あしたは、2個咲くよ。
T：どうして分かるの？　**…引き出す**
C：だって色が見えてきたもん。
T：そうか、色を見るのがポイントになるんだね。楽しみだね。
C：でもな、咲く前は、赤いけど、咲いたら青になっとる。
T：不思議だね。よく見てないと分からないよ。○○さんすごい発見だよ！　**…価値付ける**

…意味付ける

○表現したくなるようなワークシート・ふりかえりカードの工夫

無理なく表現することができ、表現したことが評価され返ってくることの積み重ねによって、表現しようとする意欲や技能が高まると考えた。また、自分の活動の過程が分かり、がんばりやできるようになったことが視覚的にとらえられると、自分の成長にも気付くことができるようになると考えた。

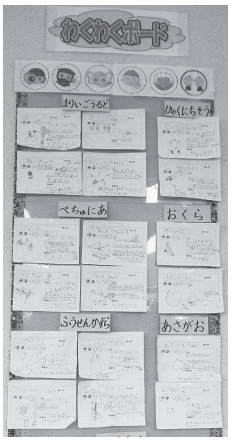


単元を通して毎時間の活動を簡単にふり返ることができるようにしたワークシート

ふた葉を描き込んで印刷し、本葉の様子に目を向けて描きやすいようにしたワークシート（部分）

○日常的に掲示・交流するためのわくわくボードの活用

「わくわくボード」とは、児童が見つけたものや気付いたことを朝の時間や休憩時間などに自由に描いて貼る掲示板のことで、廊下に設置している。この「わくわくボード」に掲示するカードを「わくわくカード」（前頁最下段参照）と呼ぶことにしている。自分のカードだけでなく、友達のカードも興味をもって見るようになってきており、授業の導入時に取り上げたり、以前の様子と比べて振り返ったりするなど、気付きを交流する手段として、活用している。



○気付きを共有するための言葉かけ

あたたかな雰囲気の中で、児童と教師が対話をしたり、児童同士がつぶやいたり、話し合ったりすることで、自分の気付きが自覚できたり、友達の気付きと比べて考え、気付きが関連づけられたりする。そこで、教師が、理由をたずねる、詳しく表す、言葉を引き出す、違いをたずねる、考えをつなぐ、価値付けるなどの言葉かけを具体的に考え、積極的に行うようにした。

3　おわりに

「気付きの質を高める」をキーワードに実践をしてきたが、単元計画の中で、あらかじめ児童の気付きを想定することにより、児童の表現の中から気付きをキャッチしやすくなることを実感することができた。取組を始めてまだ十分実践ができていないところもあるが、児童と共に活動しながら、教師自身も新たな気付きができるようにしていきたい。